

学びと誇りが実感できるまち

～一緒に考えてみましょう！～

令和3年10月号

庄原市教育委員会
教育長 牧原 明人



瀬の音の浮かみ上りぬ秋の空 (山口青邨)

先月上旬、大変うれしい発見がありました。

庄原市上原町にある甲山(かぶとやま)古墳のことで、この古墳は6世紀後半につくられた前方後円墳で、市内では2番目に大きな古墳です。そこから古墳時代の土器である須恵器が6個、大変良い形で発見されました。

現地を訪ねると、その時代に引き込まれるようで、人々の生活の様子や社会背景を思い浮かべることができ感激の連続でした。(写真：発見された須恵器)

さて、今回は、本年度の全国学力調査問題、第6学年算数の問題(全部で14問)の中から、本市児童の正答率が最も低かった問題を紹介します。

この問題は、複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方をとらえて、面積の求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかを問う問題です。

子供たちと一緒に考えてみましょう。

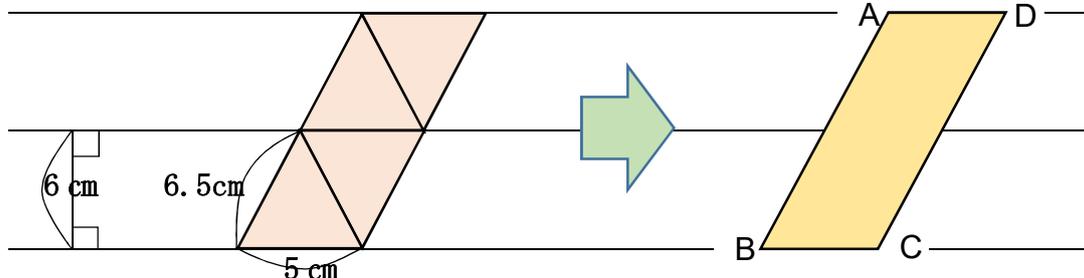
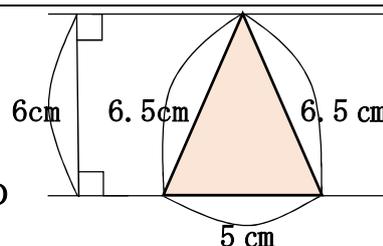
※ 第6学年 算数

この問題の正答率(庄原市：52.6%、全国：46.0%、広島県：46.7%)

(問題)

右のような二等辺三角形があります。

この二等辺三角形を四つ使い、次のように、同じ長さの辺どうしを合わせて、平行四辺形A B C Dをつくりました。



平行四辺形の面積の公式を使って、平行四辺形A B C Dの面積を求めます。

辺BCを底辺としたときの面積の求め方を、式や言葉を使って書きましょう。そのとき、平行四辺形A B C Dの高さをどのように求めたのかがわかるようにしましょう。

また、平行四辺形A B C Dの面積が何cm²になるかも書きましょう。